

茨城・栃木県私国立中入試概況

●公立各校は「公立一貫校」のページを参照。

1. 茨城県概況

茨城県の公立小6児童数は義務教育学校も含めて約24,600名で、昨年度より約200名減っています。2月28日現在の各中学校の応募総数は公立一貫校も含めて約11,000件(公表校のみ)で、昨年度の約9,500件から大きく増加しています。公立一貫校が2校開校し、中学受験が広がったことが主な理由です。

2. 県南(土浦・つくば市等)

県南のトップ校・江戸川学園取手は難関大ジュニア、東大ジュニア、医科ジュニアの3コース制です。今年度は1月6日と25日に適性検査型入試を新設、帰国生入試を11月に追加したほか、各回次の4科と適性検査型入試に、20分のリスニングによる英語の出題を追加しました。江戸川学園取手という、難しい出題というイメージがありますが、この英語については、学力観の変化に対応するもので、公立小学校での英語レベルです。従来から実施していた英語型(国算英)の英語は、今まで通りの高難度の出題です。

2020年度は各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年度、今年度と増加していて人気が上がっています。英語の追加で満点に変更になっているため、合格最低点の単純比較はできませんが、1・2回は各コースとも合格最低点の得点率があまり変わっておらず、昨年度並みの難度でしょう。2月5日の3回は昨年度に続いて上がっていて、難化したようです。

茗溪学園は国際バカロレアの認定校で、昨年度からアカデミアクラス(以下AC)と茗溪ジェネラルクラス(以下MG)の2コース制です。グローバル志向が強い受験生が多く集まっている学校で、各回次合計の応募者数は、2020年度は少し減りましたが、昨年度は新コース制で大きく増えていて、今年度も増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率は上がりました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、MG、ACとも難化したようです。

常総学院は曜日の関係で一部の入試日程が変更さ

れています。各回次合計の応募者数は今年度も増加して4年連続になります。増加の中心は適性検査型入試で、公立中高一貫校の相次ぐ開校での併願受験生の増加ですが、同校を第一志望とする入試も増えています。合格最低点は各回次ともおおむね昨年並みですが、4回の4科が上がっています。出題内容の影響でしょう。各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

土浦日大も曜日の関係で入試日程を変更した回次があるほか、数学運用能力、読解運用能力、新学力型入試を取りやめています。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は一昨年並み、今年は再び増えて人気が上がっています。千葉県の公立一貫校併願受験生向けのCSAT(11月27日)が増加の中心です。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、どうしても併願受験生が中心で、合格最低点は未公表ですが、難度は昨年度とあまり変わっていないようです。

東洋大牛久も曜日の関係で入試の日程が動いています。各回次合計の応募者数は隔年的な変化が見られ、昨年度はやや減って今年度は増加しました。合格最低点は公表されていませんが、難度は昨年並みでしょう。霞ヶ浦高校附属は小規模な入試の学校です。同校も曜日の関係で入試日程が変更されています。各回次合計の応募者は少し減っています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度は昨年度並みのようです。

開校3年目の開智望中等は、埼玉の開智の系列校で、国際バカロレアのMY P(中等教育プログラム)の実施校です。学校設立の認可条件の関係で、地元の守谷市、つくばみらい市以外の茨城県内からは入学者が5名までに制限されています。千葉県など、県外からは制限がありません。昨年度から系列校と併願できる入試を実施しており、各回次合計の応募者数は増加していますが、県内の開智望で実施される12月の第一志望入試、1月の2回の一般入試とも小規模な入試で、難度面も昨年度と変わっていないようです。寮制の青丘学院つくばも、その性格もあって今年度も小規模な入試でした。

3. 水戸近辺から県北方面、鹿行地域

茨城は曜日の関係で入試日程を動かしました。2020 年度まで安定した応募者数でしたが、昨年度は 12 月の 1 回、1 月の 2 回とも増加、水戸地区の中学受験拡大の影響が表れました。今年度はさらに大きく増えて人気が上がっています。合格最低点は 12 月の適性検査型がやや下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は上がっていて、全体に少し難化したようです。茨城キリスト教学園は応募者数が未公表ですが、各回次合計の受験者数は今年度で 3 年連続の増加です。通学圏に公立中高一貫校が増加して中学受験が拡大しているため、第一志望者が多い 1 回も増えていますから、同校の人気も上がっています。合格最低点などは公表されていませんが、難度面は各回次とも昨年度並みでしょう。智学館は、残念ながら 6 年後に閉校することになり、今年度は最後の入試でした。入試結果も公表されません。難度のコメントは割愛します。

水戸英宏は曜日の関係で一部の入試日程を変更しました。2020 年度まで入試結果が未公表でしたが、昨年度から公表するようになりました。各回次とも応募者数は増えていて、水戸周辺の中学受験拡大がわかります。実際の受験者数や合格者数は未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。国立の茨城大学附属は男女とも応募者がかなり増えました。水戸周辺で中学受験が拡大していることが増加につながっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は上がりました。合格最低点は例年未公表ですが、難化は確実でしょう。

鹿行地域の清真学園は、2020 年度は前後期計の応募者数が増えましたが、昨年度は減って小規模な入試でした。今年度はやや増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は少し減っています。前期は合格最低点は上がっていて、出題内容にもよりますが、受験生の学力水準が少し上がったようです。後期は発想力入試ですが、難度は昨年度並みでしょう。

4. 栃木県概況

栃木県の公立小 6 の児童数は義務教育学校も含めて約 16,700 名で、昨年度より約 100 名減っています。2 月 28 日現在では、公立一貫校を含む県内各中学校の応募総数が約 2,100 件(公表校のみ)で、昨年度並みです。昨年度は中学受験の規模は少し縮小していましたが、今年度は横ばいと言えます。

国立の宇都宮大附属は、応募者数の動きに男女で逆の隔年現象が見られます。昨年度は男子の応募者が増えて女子は減っていて、今年は逆に男子が減って女子が増えています。同校は例年、公立の宇都宮東との間で受験生の流動が見られ、宇都宮東の女子の応募者が減っています。ただ、今年度は宇都宮東の男子も応募者が減っていて、少し傾向が変わってきたのかもしれませんが。合格最低点は未公表ですが、男子はやや入り易くなり、女子は少し難化したようです。作新学院は曜日の関係で 11 月の 1 回、12 月の 2 回とも日程が 1 日前倒しになっています。1 回は昨年度並みの応募者数、2 回はやや減っていて、本稿執筆時点で合格者数や合格最低点が未公表ですが、1 回の難度は昨年度並み、2 回は少し入り易くなったかもしれません。

宇都宮短大附属も曜日の関係で入試日程が動いています。11 月の 1 回、1 月の 2 回の合計の応募者数は、2020 年度は増えていて、昨年度はやや減少、今年度は少し増えています。小規模な入試の学校で、合格最低点は 1・2 回とも昨年並みでした。出題内容との関係はありますが、難度に変化はなさそうです。文星芸術大附属は中高一貫生と高校の上位クラスが共学、それ以外は男子のみです。今年度は 1・2 回に適性検査型入試を新設したほか、曜日の関係で日程を変更しました。2020・2021 年度は入試結果を公表しましたが、今年度は未公表で、難度面はあまり変わっていないようです。

両毛線沿線では、国学院栃木も曜日の関係で入試日程が変更しています。小規模な入試で、各回次合計の応募者数は、2020 年度は少し増えていましたが、昨年度、今年度は前年度並みでした。合格最低点は未公表ですが、不合格者はあまり多くないので、難度面では特に変化はなさそうです。佐野日大も曜日の関係で一部の入試日程が動いています。各回次合計の応募者数は、2020 年度は減っていて、昨年度は前年度並み、今年は少し増えています。同校も合格最低点は未公表ですが、不合格者が少なく、難度は昨年度並みでしょう。白鷗大足利も曜日の関係で入試の日程が 1・2 回とも 1 日前倒しになっています。小規模な入試で、各回次合計の応募者数は、2020 年度はやや増えていましたが、昨年度、今年度と少し減っています。難度は変化がなかったようです。北部の寮制校、幸福の科学学園は入試結果が未公表でした。